

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第300回)

日時 平成28年5月18日(水) 午後2時半～5時

場所 衆議院第二議員会館 地下1階 第7会議室

千代田区永田町2-1-2

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より4分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車3分。当日、午後2時15分より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第7会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、微生物による燃料電池について

解説 渡邊一哉東京薬科大学教授

3、『新エネルギー関連ニュース NO. 155』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る4月5日開催の第299回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、清原淳平専務理事より、当団体の海底資源探査船建造に至るまでの活動経緯について説明がありました。

次に、中島稔委員長より「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題してお話がありました。メタンハイドレートは3兆円規模の市場が見込まれる。日本近海には12.6兆m³が存在するといわれており、現在日本国内1年間で天然ガスを1千億m³使用していることを考えれば、掘削、そして実用化の成功は日本の将来を左右すると言っても過言ではない。

次に、資源エネルギー庁石油・天然ガス課斎藤秀幸課長補佐より、「三次元探査船「資源」の活動・調査結果」について解説がありました。「資源」はエアガンにより発射した音波を、6000mのストリーマーケーブル10本で受振して、海底面の状況を3Dで探査する。有機物が石油に変わっていくキッチンエリアと石油が貯まる窪みの両方を有する構造の地帯を見つけ出す役割を担っている。有望地帯が見つければ、掘削してみて、油ガスが出るのを確認。その後、開発・生産段階へと進んでいく。ストリーマーケーブルの長さは、おおむね探査できる海面下の深さと同等になるため、海底が深い地域の探査には長いストリーマーケーブルが必要だ。油ガスの探査には3000m以上のものが必須となる。有望地点とされた上越海丘で平成25年に掘削を行ったが、わずかな油ガスしかでなかったため残念ながら商業化には至らなかった。また島根・山口県沖の試錐を本年5月～8月に行う予定である。乗組員についてはノルウェー企業からの技術移転が進み、日本人のみで三次元物理探査ができる体制を構築できている。今後も年間6,000km²のペースで探査を続けていく（平成25年度のエネルギー・鉱物資源開発計画）。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.154』の解説がありました。今回は、○植物の光合成よりも高い効率で水を分解し、酵素を発生させる安価な触媒を開発。○水素を吸収・貯蔵・放出できる合金を開発。建物内の余剰電力を、水素吸蔵合金タンクに水素として貯蔵するシステムをつくる。○太平洋沖でメタンハイドレートを調査掘削。メタンハイドレートが貯留する地層の情報を収集し、生産実験に向けて準備を進める。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次回、5月18日（水）の新エネルギー委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320
両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp